

PlxViewer 使用法

注意事項

1. 著作権

著作権は、作者(松坂 義哉)が保持します。

2. 使用条件

個人的な使用に関しては特に制限は設けません。営利目的および商業目的の利用を禁じます。尚、プログラムの仕様と外観は予告なく変更することがあります。

3. 免責事項

本プログラムの使用により生じた一切の不具合について責任は負いません。

本プログラムは"無償・無保証"です。自己責任でお使いください。

ウィンドウを開く

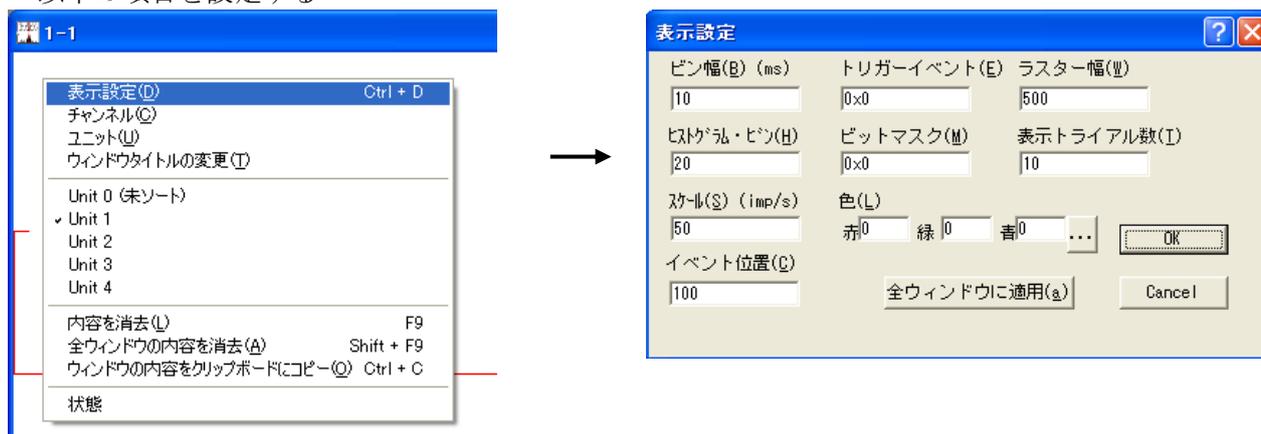
メインメニューから「ウィンドウ→開く」を選択するか、F4 キーを押して新しいウィンドウを開く。



表示パラメーターを設定する

開いたウィンドウの中でマウスの右ボタンをクリックして、ローカルメニューから表示設定を選ぶ。

以下の項目を設定する



項目と値の意味は以下の通り。

ビン幅: ラスターのビン幅(ms 単位)

ヒストグラム・ビン: ヒストグラムのビン幅(ms 単位)。ラスターのビン幅の整数倍にすること。

スケール: ヒストグラムの縦 100 ドットあたりの発火頻度

イベント位置: ラスターを揃えるイベントが表示される位置(1 以上でラスターの幅より小さい値)。

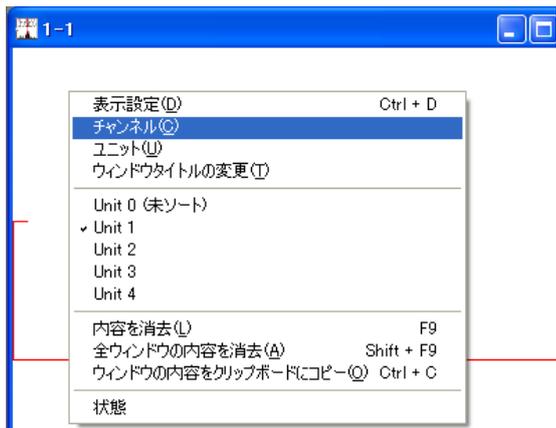
トリガーイベント: ラスターを揃えるイベント。strobed word のみ対応。10 進数、16 進数形式のいずれでも入力可(16 進数なら先頭に 0x をつける)

ビットマスク: トリガーイベントの値で無視するビットを指定する。ここで指定した値のビット反転値と Plexon の MAP システムが受け取った strobed word の AND 値が上記のトリガーイベントに等しければラスターが描画される。例えば、トリガーイベントが 0x01、ビットマスクが 0xffff0 のとき、Plexon のイベントの値が 0xffff1, 0x4321, 0x11 の何れでもトリガーされる (0xffff0 のビット反転値 0x000f と前記の値との AND を取るといずれも 0x01 になるから)。一方、0x0a, 0x02 などはトリガーされない。

ラスター幅: ラスター・ヒストグラムの幅(ドット数)。

表示トライアル数: ラスターに表示されるトライアルの数

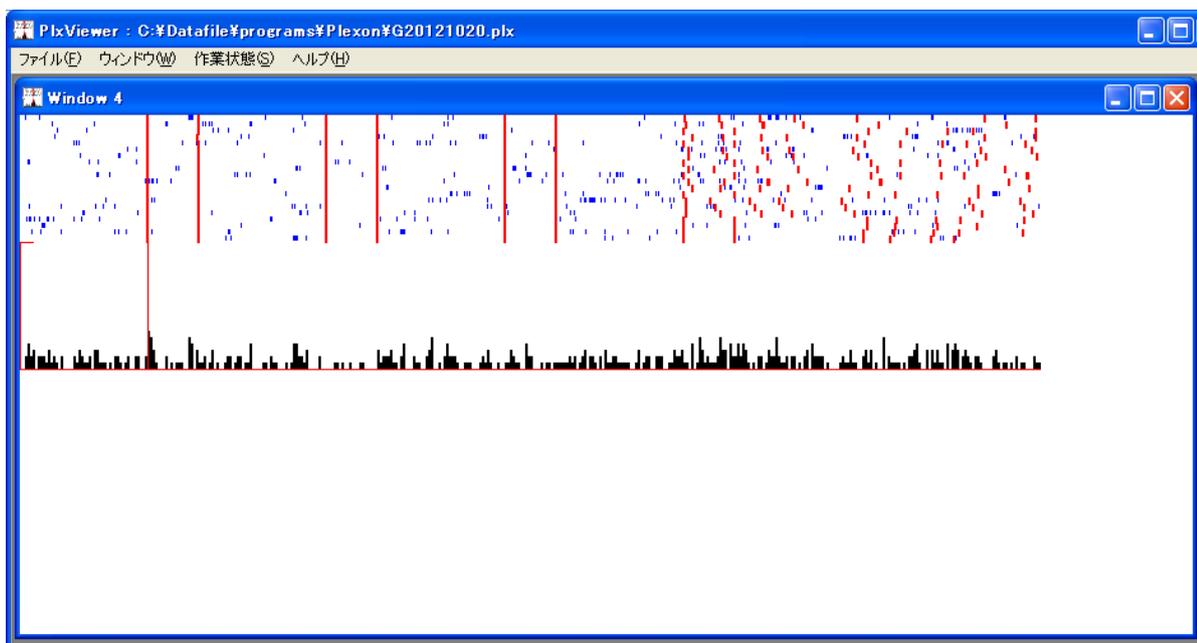
スパイクのチャンネル、ユニットを指定する



チャンネルは使用している MAP システムのチャンネル数の範囲内で指定する。ユニットは 0~4 の範囲で指定する(0 は Plexon の SortClient の unsorted unit, 1~4 はユニット a~d に該当する)。

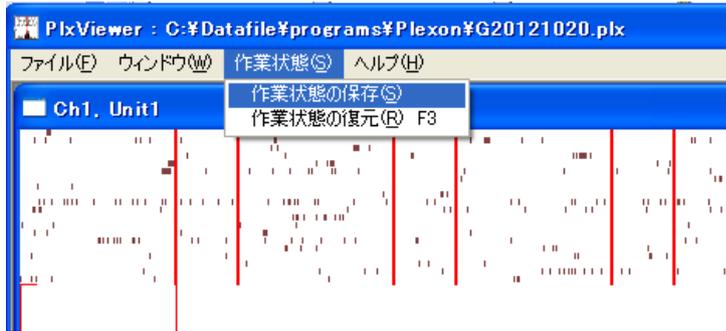
ファイルを選択する

メインメニューよりファイル→開くを選択し、表示したいスパイク活動が含まれるファイルを選択する。すると、子ウィンドウの中にラスター・ヒストグラムが表示される。



一端ファイルを開くと、2 秒に一回の頻度でファイルの内容を読み込み、新たなデータが追加されていけばウィンドウの内容を更新する。

作業状態を保存する



現在開いているウィンドウの位置、大きさ、表示パラメーターなどを保存するためには、メインメニューから作業状態→作業状態の保存を選び、名前を付けてファイルに保存する。

保存した作業状態を復元する

ファイルに保存した作業状態は、メインメニュー→作業状態→作業状態の復元で随時復元出来る。

現時点(2014-07-17)の問題点

データサイズの制限

各ウィンドウは5000個以上のスパイクを表示できない。そのため、スパイクの発生頻度が高い場合やラスター幅、トライアル数に過大な値を指定した場合には、要求された数のトライアルを表示できない事がある。

印刷機能が未実装

ファイルメニューに印刷という項目があるが、現時点では実装されていない。